

平成28年度国際ボランティア支援事業部の支援にかかる
「NGO講演会等概要レポート」

一般財団法人ゆうちょ財団
国際ボランティア支援事業部

国際ボランティア貯金の寄附金の配分又はNGO海外援助活動助成事業の助成金を受けているNGOが学校、地域団体等で、国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該団体の海外での事業活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりで、申請により当国際ボランティア支援事業部で審査しました。

なお、対象となる平成22年度から平成25年度に寄附金の配分を受けた団体及び平成27年度または平成28年度NGO海外援助活動助成事業の助成を受けている団体には、実施のご案内を文書で通知しました。

○助成する金額は、講演会等1回につき所要経費のうち5万円を上限。

・ただし、助成回数は1団体につき1年1回。

○助成の対象とするのは、次の講演会等とします。

・国際ボランティア貯金の寄附金の配分を平成22年度から平成25年度に受けている団体及び平成25年度から平成28年度にNGO海外援助活動助成事業の助成を受けている団体の講演会等であること

・参加者（児童・生徒等を含む）が概ね30人以上見込まれる講演会等であること

・平成28年4月から平成29年2月末日までに開催する講演会等であること

○平成28年度は8団体へ助成しました。

Index

1	特定非営利活動法人地球市民の会	1
2	認定NPO法人アジア教育友好協会	3
3	特定非営利活動法人地球の友と歩む会	5
4	特定非営利活動法人国境なき子どもたち	7
5	特定非営利活動法人ジャパンハート	9
6	特定非営利活動法人国際交流の会とよなか (TIFA)	11
7	特定非営利活動法人日本・バングラデシュ文化交流会	14
8	特定非営利活動法人エクアドルの子どものための友人の会 (SANE)	16
9	アンケート結果	18

認定 NPO 法人 地球市民の会

1. 開催日：平成 28 年 4 月 16 日（土）11 時 30 分～15 時 00 分
2. 開催場所：佐賀県国際交流プラザ
3. テーマ：「ランチでつながる国際協力セミナー」
4. 講師：①Daw Woo May（ミャンマー家庭料理講師）
②鈴木 亜香里（認定 NPO 法人地球市民の会ミャンマー駐在員）
5. 参加者：30 名
6. 内容：講演①「ミャンマー料理をつくってみよう」
講演②「ミャンマー駐在員帰国報告」

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

ミャンマーの家庭料理を一緒につくり、ミャンマー文化に親しんでもらうとともに、当会がミャンマーで行っている農村女性の自立支援事業の報告や、ミャンマー農村の女性が置かれている状況などを伝える。

#### (1) 講演①「ミャンマー料理をつくってみよう」Daw Woo May（ミャンマー家庭料理講師）

今回は、ミャンマーの家庭料理であるオンノウカウスエ（ココナッツヌードル）を調理し、みんなで食べた。材料も、一部はミャンマーから持ってきており、参加者は食文化の違いや、同じ野菜でも食べ方や調理方法が違うことを学ぶことができた。また、現在の発展からミャンマーの食生活の変容や、食の安全への意識などといった話も質疑応答の中で出ていた。

#### (2) 講演②「ミャンマー駐在員帰国報告」鈴木亜香里（地球市民の会駐在員・アドミニストレーター）

当会がミャンマーで行う事業について紹介した。今回のメインは農村女性の生活向上支援事業について報告した。男性にくらべ、賃金も安く、また家事労働のために働きに出れず現金収入を手にするのでできないミャンマーの農村女性の置かれている現状を説明した。女性が収入を得ることができると、こどもの教育や家族の福祉にもいい影響がでることから、当会は女性の職業訓練（食品加工や手工芸）を実施し、生産グループをつくることで販売まで取組み、収入向上ができるよう支援している。講演の中では、女性たちがつくった加工品であるお茶を試飲してもらった。帰りには、成果物である手工芸品や加工品を販売、参加者は興味を持ち購入した方もいた。

#### ■参加者の感想

- ・ ミャンマー料理がおいしかった、文化の違いが分かりうれしかった。
- ・ 詳しい活動内容が知れてよかった。今後活動に参加したい。

### 当財団の NGO 海外援助活動助成事業、又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

■支援事業：農村女性による生産グループ組織強化及び自立運営事業

■実施期間：平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月

■実施地域：ミャンマー連邦共和国シャン州南部ニャウンシュエタウンシップ



## 認定 NPO 法人 アジア教育友好協会

1. 開催日：平成 28 年 6 月 13 日（月）
2. 開催場所：札幌市立美園小学校
3. テーマ：「東南アジアの子どもたちの生活の現状から考える」
4. 講師：宍戸仙助（認定 NPO 法人 アジア教育友好協会 参与）
5. 参加者：札幌市立美園小学校 5 学年児童 69 名（2 時間）、6 年生児童 76 名（1 時間）  
教師 8 名、旧 PTA 役員等 2 名
6. 内容：講演「ラオスの子どもたちの目の輝きに学ぼう」

~~~~~

講演会内容

■講演概要

(1) 講演 「ラオスの子どもたちの目の輝きに学ぼう」

- 1) 自己紹介、訪問者紹介
- 2) 東南アジアの地図上でのラオスの場所の確認、ラオスの国旗の色について
- 3) ラオスの多くの民族、国の概要
- 4) パチュドン村のラップ君が学校に来られなかった訳について考え、話し合う。
- 5) クラスタ爆弾の怖さと影響について
- 6) 人々の貧しい生活、子どもたちの生活の現状、食べ物、学校の様子についての紹介
- 7) パチュドン村の子どもたちの瞳の輝きのわけを考え、話し合う。
- 8) それを知った東館小の子どもたちの取組（ビデオ視聴）について知る。
- 9) ワンコインスクール、復興の鯉のぼり（ビデオ視聴）について知る。
- 10) ラオス NGO トップのノンさんの言葉「人の役に立つ人になろう」について考える。
- 11) 現在の 6 年生が手作りした作品が現地の小学校に届けられ、現地の子どもたちが喜んでそれらの作品を見つめ、日本に対する「夢や希望」を広げている様子を訪問した参加者から報告を聞く。
- 12) 旧 PTA 役員などが支援を継続する姿を知り、自分たちにできることを具体的に考える。

(2) 参加者の感想

- 1) ラオスは、大変なんだなーと思いました。でも、いつも笑顔でスゴイなと思いました。
東日本大震災の時、たった一人 10 円ですが、大切なお金を分けてくれて、とてもうれしく、ありがたくスゴイと思いました。これからも、ラオスと日本、協力してがんばりましょう。
- 2) ラオスの事を教えてもらってよかったことがたくさんあります。ラオスに住んでる人は、お金も少なく、人口もあまり多くなくて、日本みたいにコンビニとか、スーパーもなんもないのにがんばっていて泣きそうになりました。女の子のしょうらいの夢が「大人になりたい」って言っていて、大人になることがどれだけいいことなのか分かってとてもよかったです。
- 3) ラオスと日本は、強く結ばれていてお互いにやさしくよい国だと思います。
(これからもラオスの人たちをしえんしたいと思います。)
- 4) ラオスの人たちは、小さい子が、がけの近くの下まで水をくみに行っていて、すごいなど

おもいました。ラオスの人たちの食べ物はとってもびっくりしました。とくに、バッタをことに驚きました。

当財団の NGO 海外援助活動助成事業、又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

- 支援事業：「教育を受けられない地域の中学生のための教室新設及びトイレの増設等施設整備（ラオス・パチュドン村）」
「中学校の増築（ラオス・サラワン県タオイ郡パチュドン村）」
- 実施期間：平成 21 年度及び平成 22 年度
- 実施地域：ラオス人民民主共和国 サラワン県タオイ郡パチュドン村



特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

1. 開催日：平成28年7月8日（金）10時40分～12時10分
2. 開催場所：北海道教育大学旭川校
3. テーマ：「インドにおける国際協力のむずかしさと成果」
4. 講師：米山 敏裕（地球の友と歩む会事務局長）
5. 参加者：30名
6. 内容：当会がインド、タミルナド州でおこなってきた有機農業基盤整備事業について紹介するとともに海外の援助機関が支援活動をするための困難さを、生活文化、風習と併せて、どのように接してきたかを講演した。

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

講演会を行ったクラスは教職課程を履修し、将来教員志望の学生であった。クラスでは異文化理解を学んでいて、インドで国際協力を行う際の障害になっている点、異なった生活様式のなかで何に配慮していったら良いのかについて、また、国際協力の意義や国際ボランティア貯金により NGO 支援の仕組みや成果についても解説を行った。当会の事業は 2014 年に国際ボランティア貯金の助成金にて行われた事業で、降雨量の少ないなかで雨水をどのように有効活用していくか、植林の大切さなどについても現場での写真を見てもらい紹介していった。

事業を開始するまでの調査では、事業地の住民とどのように信頼関係を築いて、現場のニーズを引き出していくか体験を交えて説明した。具体的な例として「トイレづくり」について、トイレで用をたす習慣のないところで一方的にトイレをつくることを強要しても、失敗し、現地の人たちと話し合い、どのようにしたらトイレづくりに関心をもち、住民がやる気になっていくか、時間をかけていく必要があることを強調していった。

海外から支援事業を行うときには現地の人たちの生活習慣、価値観を尊重し、現地の人たちから意見を謙虚に聞いていく姿勢が大切であること、現地の人たちの生活のサイクルをしっかりと観察し、支援する側だけの都合で関わっていくと協力が得られないし、事業の成果をあげられないことも強調していった。

最後に、教員をめざしている学生に対しては色々な価値観、個性を持った人をいかに伸ばしていくか、十分な対話をしながら進めて行くことが肝要であることを強調していった。また、機会を見つけて異なった文化を持つ国に出かけていき、日本のこと、日本人を客観視していくことも積極的に行うよう勧めた。

#### ■参加者の感想

- ・海外での国際協力の現場のことを知ることができてよかった。
- ・NGO での仕事はいろいろなことに配慮しなければならないので、タフな仕事であることを知った。
- ・インドの状況について聞くことができた。
- ・海外援助とはなにか知る機会となった。

**当財団の NGO 海外援助活動助成事業、又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要**

■支援事業：農村における土壌浸食防止のための治水工事及び有機農業指導

■実施期間：平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月

■実施地域：インド、タミルナド州デバトール、コタヤムの 2 村



## 特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

1. 開催日：平成 28 年 10 月 8 日（土）14 時 00 分～15 時 30 分
2. 開催場所：アイテムフォトギャラリー「シリウス」
3. テーマ：「カンボジアにおける活動紹介 自立支援について」
4. 講師：渋谷 敦志（フォトジャーナリスト）
5. 参加者：52 名
6. 内容：国境なき子どもたち写真展 2016

「明日に吹く風 カンボジアの若者たち 2003-2016」ギャラリートーク

~~~~~

講演会内容

■講演概要

経済成長が著しいカンボジアの未来を担う「若者たちの今」を伝える写真展会場にて、未成年犯罪や KnK カンボジアの教育支援について、アナウンサー渡辺真理さんの司会のもと、フォトジャーナリスト渋谷敦志さんの視点を交えて報告しました。

国際ボランティア貯金の寄附金事業との関連がある「法に抵触した子ども」が生まれる背景、また犯罪を未然に防ぐためにも、継続的な自立支援が必要であることなどを、10 年以上前に取材した子どもたちが支援を受けてどのように変わり、現在の生活を送っているのか、会場写真と共にお伝えしました。

講演の最後には質疑応答も行い来場者と共にカンボジアの若者を取り巻く現状、課題、日本で暮らす私たちにできることについての理解を深め、共有しました。

- (1) 講演「国境なき子どもたち写真展 2016「明日に吹く風 カンボジアの若者たち 2003-2016」ギャラリートーク」講師名：渋谷 敦志（フォトジャーナリスト）

- 一之瀬泰造にあこがれ、17 歳で写真家を目指す
- カンボジアの自立支援施設「若者の家」
- 10 年間で変わったもの、変わらなかったもの
- 40 点の写真から見えてくるカンボジアと若者たち

■参加者の感想

1. カンボジアはかつて、みな貧しく助け合うような社会だったのが、発展を進めてきて儲かる人はもうけ、農村に残る人は貧しいなどの格差が生まれてきていることが分かった。これまでの支援の方法だけでなく新しい問題に対する支援が必要だと思った。また若者の言葉が僕にも響くものがあり、生き方の参考になった。（10 代・男性）
2. 自分の意識の中では、ポルポト時代の悲惨な状況でカンボジアのイメージは止まってしまっていました。今日の写真展やお話を通じて、少しずつではあっても前に進みつつある、特に若い世代について知ることができて良かったです。（60 代・女性）

3. カンボジアが身近になった。支援の広がり、継続（あきらめない、あせらない）することで人間性・社会性の回復につながる。孤独や絶望から共生・希望へ。（50代・男性）

当財団の NGO 海外援助活動助成事業、又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

- 支援事業：法に抵触した子どもへの基礎教育及び職業訓練
- 実施期間：平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月
- 実施地域：カンボジア王国バットアンバン州、バンテアイミエンチェイ州



特定非営利活動法人 ジャパンハート

1. 開催日：平成 28 年 11 月 13 日
2. 開催場所：淀屋橋カルチャセンター
3. テーマ：「国際医療ボランティア 説明会・体験報告会」
4. 講師：①岸 直子 氏（ジャパンハート長期ボランティア医師）
②薮崎 美紀 氏（ジャパンハート長期研修修了生）
5. 参加者：26 名
6. 内容：講演①「国際医療長期ボランティア体験報告」
講演②「国際看護長期研修体験報告」

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

特定非営利活動法人ジャパンハートにおける海外医療活動のうち、国際長期ボランティア、国際長期看護研修の参加者による体験報告を行う。

#### (1) 講演①「国際長期ボランティア体験報告」

講師名 岸 直子 氏(口腔外科医 国際医療ボランティア長期活動医師)

2015 年から約 1 年間ミャンマーワッチェ慈善病院で医療活動を行う。日本では口唇裂・口蓋裂などの先天性奇形は手術乳児のうちに手術が受けられるがミャンマーでは貧困などの理由から幼児・学童期になっても治療が受けられない、また外見的な差別・偏見などから就学できないなどの現状を説明。約 1 年に渡り外来と手術活動を行う。現在は 1～2 か月に 1 回ミャンマーワッチェ病院で手術活動を行っている。

#### (2) 講演②「国際看護長期研修体験報告」

講師名 薮崎 美紀 氏(ジャパンハート長期研修修了生)

1 年間にわたる国際長期看護研修に参加するきっかけを手始めに、対馬病院とミャンマーザガイ管区のワッチェ慈善病院の活動内容を紹介。半年間ワッチェでの医療活動を行う中で、現地のニーズを探し、より現地の患者様に「寄り添う看護」を探求。現在も不定期ではあるがワッチェの医療ボランティア活動に参加をしている。

#### ■参加者の感想

- ・「医療の届かないところに医療を届ける」ことの大切さを知ることができた。
- ・活動に参加したい気持ちが強くなった
- ・ミャンマーの人々の生活・医療の状況を知ることができた
- ・これからも続けて欲しい活動だと感じた。

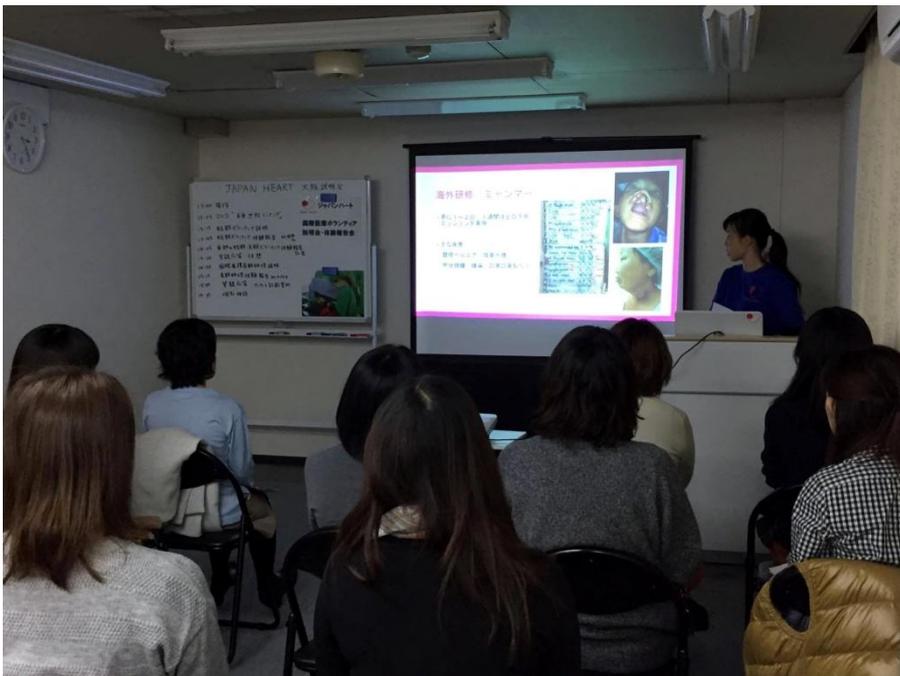
### 当財団の NGO 海外援助活動助成事業、又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

■支援事業：現地住民に対する医療活動・医療専門職に対する医療指導事業

■実施期間：平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月

■実施地域：ミャンマー連邦共和国 サガイン管区 サガインヒル ワツチェ村

講演会の様子 上：岸川医師、下：薮崎看護師



## 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか (T I F A)

1. 開催日：平成 28 年 12 月 9 日（金）15 時 00 分～20 時 00 分（2 回）
2. 開催場所：とよなか男女共同参画推進センター すてっぷ 視聴覚室
3. テーマ：「ネパールの女性たちとともに」
4. 講師：①ネパール活動 アドバイザー 中園 敏也  
②ネパール・サクー村プログラムリーダー 島本真知子  
③ネパール・ブンガマティプログラムリーダー 海野バティ  
④ネパール・ドダウリ村プログラムリーダー 葛西 芙紗
5. 参加者：52 名
6. 内容：講演①「ネパールにおける NGO 活動の現状と課題」  
講演②「サクー村での活動」  
講演③「ブンガマティでの活動報告」  
講演④「ドダウリ村の活動」

~~~~~

講演会内容

■講演概要

(1) 講演①「NGO 活動の状況と課題」

講師名 中園 敏也 ネパール活動 アドバイザー

キルト専門家の吉川順子が、フィリピンのカオハガン島で始めた、キルト工芸製品の指導・販売協力を続けていた所、TIFA の葛西から、ネパールでも始めたいので協力してほしいと頼まれ、現地を視察し、条件を確かめ、吉川順子派遣を決断した。あたらしいキルトのデザインをベースとして地域で伝わるミティーラアートや、影絵の手法やヘナ・タトウの図案などをエッセンスとして取り入れ、ドダウリキルトが出来あがってきた。ドダウリキルトの成功要因は、1、現地と TIFA との強い信頼関係があったこと 2、ベースとなる場所があったこと 3、距離の問題が、結果として「現地に任せる」ことにつながったこと・・・がある。年間買い取り金額：約 55 万円、キルターーの収入・・・一人当たり約 3 万円・・・を一人当たり月 5 千円の収入を実現し、将来はキルトの収益がキルターーと現地 NGO への還元の外に、現地の人たちで話し合っ活用できる「新しい基金」の創設を考えている。

(2) 講演②「サクー村での女性の自立支援活動～ダカ織」

講師名 TIFA サクー村担当責任者 島本 真知子

サクー村は地震の被害が甚大で、現地担当者の家族が 3 名死亡し、作業所は避難家族のために、1 部屋のみになったが、作業に来ることができる人が来て、ダカ織をして、日本へ送ってきたものを販売し、売り上げを現地へ送っている。また地域のウグラタラ小学校の奨学金、給食支援も続けている。日本で、もっと多くのダカ織製品の販売を求められているが、販路開拓は難しい。

(3) 講演③「ブンガマティでの女性と子どもの支援活動～ニットとビーズ製品」

講師名 TIFA ブンガマティ地区担当責任者 海野 バティ

2015 年 4 月に起きた大地震の被害が甚大だった為、震災後、復興支援のためにプログラムを開

始した。当初は TIFA で呼びかけた「ネパール大震災被災緊急支援募金」で集まった資金の用途を現地のリーダーたちと話し合い、まず、ファルシドール村の壊れた家の人たちへトタン、毛布などを渡した。以降、村人たちと話し合った結果、支援されるだけでなく自分たちで出来る事をした。女性たちはニット製品を作って、少しでも収入を得たい・・という意見が出たので、中心の地区ブンガマティのニット教師を中心に、編み物をはじめ、その製品を日本で販売し、売り上げを現地の制作者と村の支援活動(簡易水道の修復費用など)に渡している。編み物をしている女性達、農閑期を利用して収入を得ようと頑張っている村の女性たちも含めて、この事業をもっと発展させたい。

(4) 講演④「ドダウリ村の活動」

講師名 TIFA ドダウリ村プログラムリーダー 葛西 美紗

1994 年よりドダウリ村の女性と子どもの支援を中心に活動してきた。20 年以上前の当初は、電気もトイレもなく、共同井戸での生活だったが、この 20 年の間に電気が通り、井戸ができ、トイレは今年で 20%くらいまでになり、ほとんどの子どもが学校へ行くようになった。

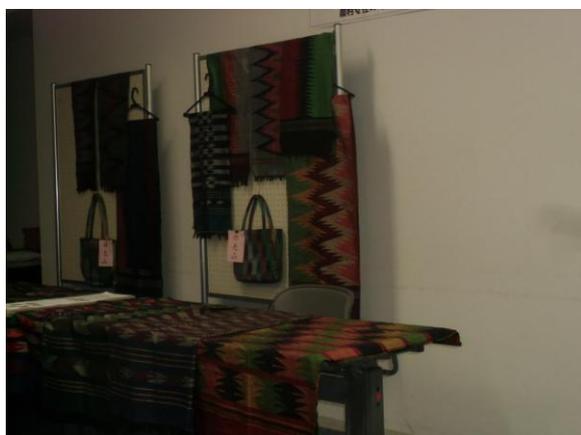
NGO 活動助成金を受けて、いろいろな活動を進めることができ、女性たちの意識も少しずつ進み、収入を得るために洋裁教室やキルト作業に来る女性が増え、マーケットで洋裁店を出す女性まで出てきた。販売できる製品を作るために、3 年前に導入したキルト製品づくりが軌道に乗り始め、日本での販売が中心であるが、カトマンズでの販売にも力を入れている。

また今年度は、助成金を受けて、もう一つ「製菓・製パンプログラム」をはじめることができ、設備を整え、アドバイザーを派遣し、プログラムが軌道に乗るよう活動している。

当財団の NGO 海外援助活動助成事業、又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

- 支援事業：女性の経済的自立に向けた縫製品試作、製パンのマネジメント・マーケティング指導
- 実施期間：平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月
- 実施地域：ネパール・ジャナクプール県シンズリ郡ドダウリ村

ダカ織の展示



講演：講師 中園 敏也



キルト製品の展示



NPO 法人 日本・バングラデシュ文化交流会

1. 開催日：平成 29 年 1 月 7 日（土）13 時 00 分～15 時 00 分
2. 開催場所：JICA 地球ひろば セミナールーム AB
3. テーマ：「バングラデシュの手仕事」
4. 講師：①松本智子（NPO 法人日本・バングラデシュ文化交流会理事長）
②佐藤奈保子（青年海外協力隊帰国隊員バングラデシュ・手工芸）
5. 参加者：35 名
6. 内容：講演①「農村女性の刺繍による収入向上事業の活動」
講演②「バングラデシュの手仕事紹介とノクシカタ刺繍体験ワークショップ」

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

NPO 法人日本・バングラデシュ文化交流会は、バングラデシュ西南部ジェソール県シャシャ郡で青年海外協力隊が農村生活改善の活動を行った経験をもとに、帰国後も協力を継続する目的で発足。以来、20 年にわたってバングラデシュ農村で活動を行ってきた。現在、住民参加による持続可能な学校給食、大豆加工食品作り、農村女性の刺繍製作による収入向上事業の 3 つの活動を実施。

今回の講演会では、当会が取り組んできた農村女性のノクシカタ刺繍による収入向上事業について報告。昔から行われてきたノクシカタ刺繍について紹介し、実際に参加者全員がノクシカタ刺繍を体験。バングラデシュ農村の人々の暮らしの知恵から生まれたノクシカタ刺繍を楽しく理解した。

#### (1) 講演①「農村女性の刺繍による収入向上の活動」

松本智子 (NPO 法人日本・バングラデシュ文化交流会理事長)

イスラム教徒が多いバングラデシュ農村の活動地では、女性は外出することはほとんどなく、家の周辺で家事手伝いで忙しい。村で収入を得る機会は少なく夫の病気・離婚や死別で一人になった女性たちが農村で厳しい生活を強いられる現状に、ジェソール地方で古くから盛んに行われるノクシカタ刺繍の技術を生かして収入を得る活動を開始。刺繍作りに取り組む女性たちの姿と、様々な課題にぶつかりながらも現地の人々と共に課題を解決し、活動を継続している様子を紹介。

#### (2) 講演②「バングラデシュの手仕事紹介とノクシカタ体験ワークショップ」

佐藤奈保子（青年海外協力隊帰国隊員バングラデシュ・手工芸）

古いサリーを重ね合わせて運針で補強し、再利用する暮らしの知恵から生まれたノクシカタ刺繍。特徴は、単純な運針から女性たちの遊び心で様々な文様が生み出されること。花や葉、魚、動物、人間までも描くその手法を紹介。ノクシカタ刺繍のデザインには、ヒンドゥー教の神の降臨を示すアルポナ模様など、単なる装飾を超えて祈りが込められているものが多い。

話の合間に、参加者全員が実際に針をもって刺繍を体験。単純な運針から出来上がる模様が刺繍する人によって違う模様となり、様々なバリエーションができる面白さを発見した。

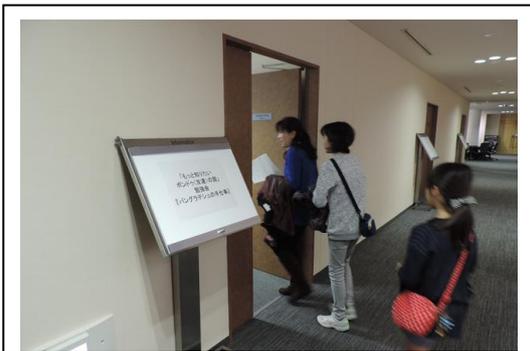
ワークショップを通して、村の女性が作ったノクシカタ刺繍製品がいかに手間暇がかかっているかがよく分かり、バングラデシュを身近に感じた勉強会だった。

## ■参加者の感想

- ・刺繍が好きで参加しましたが、ただ買うだけではない関わり方もあると気が付きました。
- ・和やかな雰囲気の中で、針仕事を楽しみました。刺繍の分類や手法の独自性など勉強になりました。
- ・実際に手芸もでき、とても素敵なイベントでした。
- ・説明がわかりやすかったです。現地を見て生活してきた人たちだからこそ語れる言葉を聞けました。
- ・刺繍作りは難しかったけれど、意外と楽しかった。
- ・デザインの可愛らしさだけではなく、耐久性にも優れた製品であるんだなと感心しました。こういった経緯でこんな方たちが作っていると具体的に見ることができれば、身近に Bangladesh の手仕事をされる方たちの想いが伝わる。私も地域で活動されている方達のことと、製品の話をしてしたいと思います。
- ・Bangladesh の女性たちがどのように収入を得ることに至ったかを分かりやすく説明いただき、刺繍もとても楽しかったです。ノクシカタ刺繍のデザインが想像以上にかわいくて気に入りました。
- ・ご苦労話も伺えましたが、それは国や文化が違えば当たり前のこと。それを乗り越えていらっしゃる自信を拝見でき、たのもしく思えました。
- ・初めてノクシカタ刺繍を体験させていただき、とても興味を持ち楽しく感じました。Bangladesh の女性たちはこうした刺繍を通して楽しみながら収入を得ていることを知り、貧しく厳しい生活の中でも楽しめていることはとても良いことだと思いました。今後も発展途上国をはじめとした様々な国のことを、体験を通して知りたいと思いました。

## 当財団の NGO 海外援助活動助成事業、又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

- 支援事業：女性を対象とした手刺繍及び縫製技術指導
- 実施期間：平成 25 年 4 月から平成 27 年 3 月
- 実施地域：Bangladesh ジェソール県シャシャ郡



## 特定非営利活動法人 エクアドルの子どものための友人の会

1. 開催日：平成 29 年 2 月 19 日（日）14 時 15 分～15 時 15 分
2. 開催場所：ぽかぽかキャリア・アカデミー講堂
3. テーマ：NGO 海外援助活動助成事業「エクアドルにおける栄養改善プロジェクト活動報告会」
4. 講師：杉田 優子（エクアドルの子どものための友人の会、代表理事）
5. 参加者：100 名
6. 内容：「SANE の説明と実施事業の説明」

~~~~~

講演会内容

■講演概要

事業実施地エクアドルの教育現状と事業の必要性。事業の歴史、現状とこれからの展望。

(1) 講演内容

事業実施地エクアドル ピチンチャ県カヤンベ郡は 1990 年後半より急激に換金農作物の栽培が盛んになり、また大資本によるパラプランテーションが広がり、そのことによりアンデス伝統作物栽培はすたれ、耕作地の荒廃と農民の都市への労働者としての移転が顕著となっていった。当初、会ではこの問題の解決のため 2003 年より「学校菜園事業」を始めた。事業の中では、伝統作物栽培を中心として、堆肥、農業用水の管理、栽培日誌作成、収穫、種の採取を小学校のカリキュラムに組み入れ、実施校の指導教師が中心となり、生徒、生徒の親、地域住民の手で実施された。2011 年よりその当時まで続いていた各学校による手作り給食の廃止と、代わりに登場したシリアルバーと粉末スープは、栄養価の高いアンデス伝統食材の衰退と子どもの栄養問題につながる事を危惧し、事業の重点を栽培作物の給食への利用による「栄養改善プロジェクト」に移行してきた。現在、実施地を移しながら 5 校で行われ、その必要性は広がっている。今後は、事業の広がりのために、地方教育行政機関との連携を進め、子どもの栄養分野の向上と、現地農業技術者の養成を目的に JICA との共同事業を進めていく。

■参加者の感想

- ・貴重な話を聞くことができ良かったです。エクアドルのことは、まだ知らないことがいっぱいあるので知りたいです。
- ・私の知らないところで素晴らしいことをやっている方々が一杯いるのだと感じます。私もできることから始めたいと感じます。
- ・現地の方と相談しながら進めていくやり方にとってもいいやり方だと思います。今後とも期待し、お手伝いしたいと思います。
- ・みなさんの活動に感動します。多くの子ども達が皆さんの活動によって夢を持つことができ、将来にたくましく生きていくことができると思います。これからの子ども達に期待します。
- ・杉田さん、素晴らしい内容でした。なぜ、今、日本だけでなく海外？と私も考えます。それは、今こそ日本だけでなく世界に、国の中に目を向け、鎖国的にならず、どの国、市でもいいのですが、世界のどこかと繋がるのが学ぶことであり平和につながると思います。学校給食、菜園は

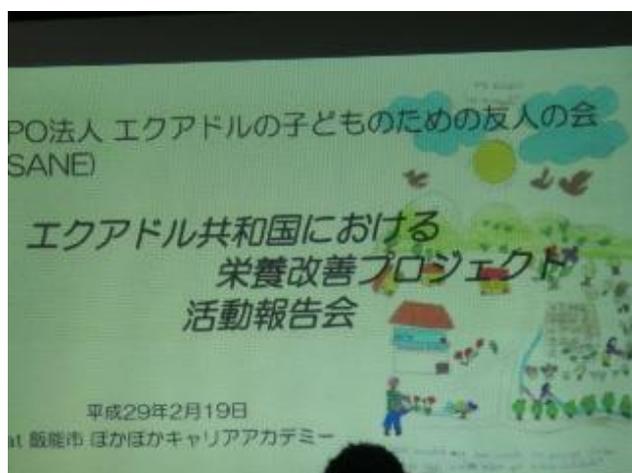
日本にも是非導入してほしい。地元の野菜を子どもたちにとというのは素晴らしい視点であり、サネの会のアクションとして良い方向だと思います。

- ・他国を見ることで日本のことも見えてくると思った。
- ・イベントを通じて活動が知られていくことが大事だと思った。
- ・エクアドルの農業をしている子供たちの姿が現れていた。このような前途有望な人々の就労就学の支援をして、やがて、社会に貢献する人々になると思う。
- ・Q3, Q4、日本国内で生きていくことも大変な中、あまり強調するようなことは避けてほしいです。
- ・ボランティアの力って素晴らしい！
- ・自分の子ども（日本）の将来を思うなら、世界の子ども達にも目を向けるべきだと思います。
- ・また、レポートを楽しみにしています。できることをして、エクアドルも訪ねられたらいいなあ。
- ・少額なのに長期間、持続的に活動していて素晴らしいと思いました。時間、お金、各種人材の制限を何とか解決される日本の社会、経済環境、政治、政策、現地の政治、社会、経済条件、状況が良くなることを願います。
- ・関係者のご苦勞がよく分かります。時間がありましたら是非、ご協力させていただきたいのですが・・・。

以上

当財団の NGO 海外援助活動助成事業、又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた事業の概要

- 支援事業：エクアドル共和国における栄養改善プロジェクト
- 実施期間：平成 27 年 4 月から平成 29 年 3 月
- 実施地域：エクアドル共和国ピチンチャ県カヤンベ郡



NGO 講演会 アンケート集計結果報告書

【全体:241 名回答】

Q1: 開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体(NGO)が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回答内容		回答数	%
1	知っていた	143	59%
2	知らなかった	86	36%
3	未回答	12	5%

Q2: 本日の講演の事業は「NGO 海外援助活動助成事業」の助成金または「国際ボランティア貯金」の寄附金の配分を受けて実施されましたが、事業内容について理解できましたか。

回答内容		回答数	%
1	よく理解できた	132	55%
2	まあ理解できた	100	41%
3	理解できなかった	1	0%
4	未回答	8	3%

Q3: 今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回答内容		回答数	%
1	必要だと思う	227	94%
2	国同士で行うだけで十分	1	0%
3	分からない	6	2%
4	未回答	7	3%

Q4: ボランティア団体は助成を受けて活動している話しをしましたが、今後も寄附や助成によりボランティア団体を支援する制度は必要だと思いますか。

回答内容		回答数	%
1	とても必要だと思った	187	78%
2	まあ必要だと思う	49	20%
3	特に思わない	0	0%
4	未回答	5	2%

Q5: 今日の講演を聞いて、自分も寄附をしたいと思いましたか。

回答内容		回答数	%
1	したいと思った	180	75%
2	特に思わなかった	15	6%
3	すでに行っている	25	10%
4	未回答	21	9%

Q6: 今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回答内容		回答数	%
1	したいと思った	166	69%
2	特に思わなかった	28	12%
3	すでに行っている	22	9%
4	未回答	25	10%

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答
	35%	18%	6%	8%	9%	12%	8%	4%

男女比	男性	女性	未回答
	39%	60%	1%

【講演会の感想（抜粋）】

- ・実際に現場で働くスタッフの方から、事業の事や研修を受けている女性の声が聞けてよかったです。
- ・ラオス人の人たちは、ちいさい子ががけの近くの下まで、水を汲みに行っていて、すごいなと思いました。ラオスの人たちの、食べ物はとてもびっくりしました。とくにいきているバッタを食べることにびっくりしました。
- ・NGOの海外援助という活動団体自体は知っていても、具体的にどんな活動をしているのか、どんな問題があるのかまで聞くことができ、貴重な時間となりました。
- ・カンボジアはかつてみんな貧しく助け合うような社会だったのが、発展を進めてきて、もうかる人はもうけ、農村に残る人は貧しいなどの格差が生まれてきていることが分かった。これまでの支援の方法だけでなく、新しい問題に対する支援が必要だと思った。また若者の言葉が僕にも響くものがあり、生き方の参考になった。
- ・貴重な体験を聴け、うれしく思いました。また、医療ボランティアに参加したいという思いがより強くなりました。
- ・バングラデシュの女性達が生活の中で、生活に密着した刺繍を一生懸命されているのは素晴らしいと思いました。少しでも生活費を稼げることを願います。この文化をつないでいてほしいです。
- ・開催者のご苦労が良く分かります。時間がありましたら、是非ご協力させていただきたいのですが・・・